

## 令和6年度 大町西小学校の教育

### 一人ひとりの輝きを認め合い、安心して自分を表現することのできる学校

#### I 学校経営ビジョン

##### 1 教育理念 【一人ひとりの輝き認め合う学校】

令和5年度、埼玉大学の岩川直樹教授をお迎えして、信教全県大会が行われました。その中で岩川先生が、「日本の教室の中は、数個の価値観しか転がっていないことが多い。そんな中で、一人ひとりの自己肯定感（有用感）が高まっていくことは実に難しい。」とおっしゃったことが、とても印象に残っています。

—「わからないと言うこと」や「友だちと違うことをしたり考えたりすること」は恥ずかしいことである—と思わずに、安心して自分を表現できる学習集団の中で、共感的に「聴き合う」ことで、一人ひとりの学びが深まっていくと考えます。よって本校では、学校づくりの理念に、「一人ひとりの輝きを認め合う学校」をおきます。

この理念の下では、教師自身の子どもの個に寄り添う姿勢が重要になってきます。子どもたちのありのままの姿を共感的に受け止め、思いを大事にしたり、児童理解を深め、適切な支援と個々のよさの位置・価値づけをしていこうという姿勢を示していることで、子どもたちと共に「一人ひとりの輝きを認め合い、安心して自分を表現し学び続ける」ことのできる学校づくりを進めていきたいと考えます。

##### 2 めざす学校像 【授業を根幹とする学校】

「明日も学校に行きたいな。」「先生や友だちと学ぶことが楽しみ。」子どもたちが学校生活をこのように感じることを目指し、一日の大半を過ごす授業時間の充実に力を注いでいきたいと考えています。

そのために、一人ひとりが主体的に、それぞれの輝きを認め合いながら学びを深めていく「協働の学び」を授業の基本とします。

これまでの取組により、本校では対話を基盤とした「協働の学び」の定着が進んできました。本年度も、自分の考えをもち、対話を通して考えを深め、自分にとってより良い考えを創り上げていく「協働の学びの場」を保障することによって、自分で課題を見つけ、友と協働しながら解決する力を育み、未知の状況においてもよりよく生きようと、学び続ける自律した子どもを育てていきたいと思えます。そのために、子どもの思いや願いに寄り添い、共に学んでいく姿勢を大切に子どもの学びを支援していきます。そして、困ったことやわからないことを、安心して友だちや先生に聞いたり相談したりすることのできる温かな雰囲気への向上に努めていきます。また、教職員同士も、子どもたちとの関りにおける悩みや不安等を自然体で相談し合える職場づくりや、技量向上に向けた取組を行って参ります。

#### 「美しき歌声」

—毛涯 章平—

何げなく廊下にいざれば、彼方の音楽室より美しき歌声聞こゆ。「帰れソレントへ」の独唱なり。思わず聞きほれ、遠く拍手を送る。

その歌声のすばらしさもさることながら、それにも増して嬉しきは、その声を出さしめたる教室の雰囲気なり。各人が何事においても、照れずおくせず堂々と、もてる力を発揮できる雰囲気こそだいじなれ。その中にありてこそ、個々の伸び、全体も向上す。

学年も然り、学校もまた然り。心すべきことなり。  
「肩車にのって」